

令和3年6月17日

学校法人三幸学園  
名古屋こども専門学校  
校長 村橋 一成 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 飯島 聡平

### 学校関係者評価委員会実施報告

令和2年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

#### 記

#### 1 学校関係者評価委員

- ① 飯島 聡平 (飛鳥未来きずな高等学校 事務局長)
- ② 茂呂 章人 (学校法人三幸学園 チャイルドケア事業本部)
- ③ 伊東 慶 (学校法人慶和学園慶和幼稚園 園長)
- ④ 山田 馨楠 (名古屋こども専門学校 2019年度卒業生)

#### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

令和3年6月17日 (会場 名古屋こども専門学校 302教室)

#### 3 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

# 令和2年度 学校法人 三幸学園 名古屋こども専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：教務課長 津脇 俊

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 飯島 聡平

## 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

## 2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### ① 前年度重点施策振り返り

退学率低減を重点課題として学校全体で取り組んだ結果、退学率の低減に成功した。(学内での取り組みに加え、オンライン授業の促進が退学率の低減につながったことも考えられる。)また、新型コロナウイルスの感染拡大の中でもより充実した教育体制を整えるためにオンライン授業(同時双方向型主)の充実を図った。授業だけでなく就職活動等の機会も減らさないためにオンラインでの就職イベントを実施。コロナ禍であっても学生満足度を向上させることに成功した。また、学生の質向上に向けて、短期的な強化目標を時期に合わせて掲げ、浸透を図った。

### ② 学校関係者評価委員会コメント

コロナ禍における就職活動の状況について、特に県外に関してはオンラインでの説明会参加も多く実施された。

山田委員：自身が務めている園ではオンラインでの就職説明会の実施には至っていない。

伊東委員：愛知県名古屋市内ではまだオンラインの活用は普及していないのが現状。

茂呂委員：地方からの希望者も多いためオンラインを利用して説明会を実施。反響も良い。

### 3.評価項目の達成及び取組状況

#### (1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

#### ① 課題

学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などを生徒に対しては周知できているが、保護者への浸透に課題が残る。

#### ② 今後の改善方策

保護者向けの説明会を対面に限らず定期的を実施していく。

#### ③ 特記事項

2021 年度入学者に対してオンデマンドによる保護者向け説明会を実施した。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

伊東委員:幼稚園では例年 4 月に行う学級懇談会を動画配信の形式で実施した。保護者への周知に関しては評価基準が「周知」という基準であれば現状の取り組みでも評価は 4 として良いのではないか。もし「浸透」ということを求めるのであれば何をもって浸透できたとするのか具体的な基準まで考えられると良い。

## (2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

### ① 課題

- ・学内 LMS(SankoGate)は大多数の教員・生徒に浸透させることに成功しているが、運用が定着していない一部の教職員には同システムで発信される情報が伝わり切っていない可能性がある。
- ・従来の会議では紙面ベースの資料で実施していたため手間とコストが掛かっていた。

### ② 今後の改善方策

- ・引き続き SankoGate の周知を図り、情報発信を定期的に行うことで習慣化させる。
- ・定例会議は WEB システムを使って実施。ペーパーレスで資料の即時共有と修正が可能な環境で行う。

### ③ 特記事項

特になし。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

伊東委員：他大学と比べると良いシステムが導入されているので、引き続き周知して欲しい。  
茂呂委員：本園では園長宛てへの全体発信は内容の精査を本部で行い、タイトル等で重要性を伝え、リマインドを徹底することで周知を図っている。

### (3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

#### ① 課題

- ・こども総合学科3年次に限りインターンシップをカリキュラムとして導入した。今年度より実施のため効果はこれから図っていくが貴重な機会なので効果的な学びに繋げていきたい。
- ・職員の能力開発のための研修は必要最低限の研修は行えているが、質向上に向けた研修は模索中。

#### ② 今後の改善方策

- ・インターンシップ実施後に学生視点での振り返りを実施し、より教育効果の高い内容にしていく。
- ・教職員が求めている研修をヒアリングし、研修内容の精査を図る。

#### ③ 特記事項

春に教職員全体に教務研修を実施。夏の全体会議で各授業担当より振り返りの時間を設ける予定。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

##### 【インターンシップ制度】

山田委員：在学時代にインターンシップ制度があれば、様々な園を見られるので良い取り組みだと感じる。  
伊東委員：インターンシップを受け入れる側として非常に良い機会である。様々な園を知れる機会になる

ので実習園以外の観点をもって就職先を検討できるので就職先とのマッチングの精度が上がるのではないかと。業界としてもプラスになるので幼稚園連盟としても積極的に引き受けていきたい。

【保育者の質を高めるために研修など実施しているか】

伊東委員：①外部研修へ参加した後、研修内容をレポートにまとめ他の職員に対してアウトプットする場を設けている。それにより、本人の学びがより定着し、他の職員に対しても研修内容が伝わるため職場全体で研修の効果が期待できる。②研究保育も毎月実施している。③実習生が部分実習をした際には動画を撮影し、動画を元に職員や他の実習生を巻き込んでフィードバックを行うようにしている。

飯島委員：高校分野では、他分野の知識向上のため受けた講習をアウトプットする機会を設けている。

山田委員：1年間を通し取り組んでいくテーマを掲げ、1年間研修内容として盛り込んでいる。姉妹園などの取り組みも参考にしている。

#### (4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

##### ① 課題

- ・退学率は前年より低減できたが、引き続き退学率が低減できるように取り組みを続ける。
- ・卒業生の定着率等を把握しきれっていないので、今後の課題として取り組んでいきたい。

##### ② 今後の改善方策

- ・チーム担任制を導入し、学生が相談できる教職員の数を増やし支援体制を整える。
- ・定期的に同窓会等を実施することで卒業生の状況を把握できる環境を構築する。

##### ③ 特記事項

特になし。

##### ④ 学校関係者評価委員会コメント

伊東委員:チーム担任制は効果的な取り組みになると感じる。学生が実習に参加している期間に SNS を利用しての学生をサポートする情報を発信していることも学生の支えになっているのではないかと。退学率に関しては退学に至る原因は様々だが先手を打てるのであれば事前にフォロー体制を作っておく必要があると引き続き取り組みを続けていただきたい。卒業生の情報に関しては就職先へその後の状況をヒアリングすることで状況も把握でき学校と園との繋がりも深まるのではないかと。

茂呂委員:オンラインの普及によりこれまで以上に卒業生に講話等してもらう機会を作れるのではないかと。

伊東委員:就職活動だけでなく、教育の一環として授業に卒業生を招いてはどうか。

## (5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

### ① 課題

- ・課外活動の機会に乏しいので充足させていきたい。
- ・精神的な支援が必要な学生が増えているので支援体制を整えていきたい。

### ② 今後の改善方策

- ・近隣にできるイオンモールリタケの森様と産学連携協定を締結することで学生の活動の幅を広げる。
- ・チーム担任制の導入で、学生個々の支援をしやすい環境を整える。
- ・カウンセリングルームを設置しているので効果的に活用していく。

### ③ 特記事項

特になし。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし



## (6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

### ① 課題

コロナ禍の影響により海外研修は実施できなかった。

### ② 今後の改善方策

2021 年度はコロナ禍の状況次第だが現在は海外研修を実施予定。

→コロナ禍による渡航禁止の為中止が決定。

### ③ 特記事項

特になし。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

伊東委員:就職先の園では毎月避難訓練があるため、在学中に防災教育指導として実施してはどうか。

山田委員:在学中に防災訓練など知識として得ることは現場で役立つと感じる。

## (7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

### ① 課題

入学後に入学前のイメージとのギャップが生まれえないような募集活動を行う。

### ② 今後の改善方策

オープンキャンパスで正しい情報を伝えていくことはもちろん、オープンキャンパス等に参加せず出願をする学生も例年一定数いるので、必ず学校説明を行った上での出願を促していく。

### ③ 特記事項

これまで以上に学生募集に使用する媒体が増えているので、それぞれで齟齬がないように進めている。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

伊東委員：学生募集に使用する媒体が増えているということだったがメインとなっているツールはどのように変化しているのか。また SNS はどのように活用されているのか。

→入り口は紙媒体やポータルサイトであることが多いが、その後の正確な情報を伝えるためにホームページ及びパンフレットを活用。SNS の役割は学校に興味を持っている入学希望者に対して実際の学校の様子や学生の声を届けるツールとして活用している。

山田委員：SNS では保育に関連するクリエイティブをよく目にする。保育に興味がある人に対してはそのような情報が届くので保育を志望している学生にはしっかりと届いているのではないか

茂呂委員：本園ではホームページの内容を充実させるようにしている。就職決定者に対して LINE をコミュニケーションツールとして使用している。

## (8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

### ① 課題

#### 【中長期計画】

なし

#### 【予算・収支計画】

なし

#### 【会計監査】

なし

#### 【財務情報の公開】

なし

### ② 今後の改善方法

#### 【中期計画】

現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

#### 【財務情報の公開】

なし

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

## (9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

### ① 課題

現状でもパスワードによる保護、施錠管理など適正に実施できているが、今まで以上に個人情報の取扱いを遵守するよう意識を上げていく。

### ② 今後の改善方策

教職員全員が参加する会議にて定期的に浸透を図る。

### ③ 特記事項

特になし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

## (10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

### ① 課題

ボランティアの機会が限定的で多くは創出できていない。

### ② 今後の改善方策

これまでは地域の方々に向けた子育て支援を行っていたが、今後はイオンモールノリタケの森様との連携によりボランティアの機会を創出していく。

### ③ 特記事項

特になし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

伊東委員：ボランティア活動で地域貢献の一環として、地域の清掃活動など実施してみてもどうか。清掃活動は就職してからも必要なことである。近隣の円頓寺商店街との連携も検討できるのではないか。

## 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本会を通して委員からの評価は概ねよいものとしていただいた。多くの意見があがっていた卒業生支援やインターンシップ制度に関する意見を学校運営に反映していく。インターンシップは今年度より取り組んでいるカリキュラムのため学生からも振り返りを取りながら、質の向上に努めていきたい。今後も教職員会議を通じて随時改善を施し、今後の運営改善に取り組んでいきたい。